

情報開示に関する事項

介護福祉士実務者研修情報開示に関する事項

(設置に関する情報)

- 設置者：株式会社 トータルウィン
- 所在地：広島県府中市元町271-1
- 電話：0847-40-0066
- 代表取締役：藤岡 輝行
- その他の事業：有料職業紹介事業、教育・研修事業

(介護福祉士養成施設に関する情報)

- 養成施設名称：ふれあい教育・研修センター
- 所在地：広島県府中市府川町89-11
- 連絡先：0847-54-2825
- 代表者名：藤岡 秀行
- 開設年月日：平成28年12月20日
- 学 則：別紙1
- 研修施設：① 府中市商工会議所 (府中市元町445-1)

(養成課程に関する情報)

- 養成課程スケジュール：別紙2および学則内日程表
 - 定員：1クラス30名
 - 入学までの手続き：受講決定までの手続きは次の通りとする
 - ① 当連絡先まで資料請求またはホームページからダウンロードした申込書に必要事項を記載し、写真の添付・保有資格の写し・本人確認の写しを添付し、期日までに提出する。
 - ② 当社から振り込み先案内・振込領収証明添付書類を発送する。
 - ③ 保有資格ごとに設定された受講料金の入金を指定期日までに納め、振込領収証明を指定用紙に添付し、提出する。
 - ④ 当社が受講料入金確認後、受領書・通信・通学日程表・学習ガイドなどの資料を発送もって、受講決定とする。
- ※ 申込締め切り日は開講の2週間前とする。ただし、申込締め切り日以降でも、募集定員に達していない場合は、当社の判断により、申込を受け付けることができることとする。

○費用：

保有資格	受講料
無資格者	135,000円
訪問介護員（ホームヘルパー）2級研修修了者	110,000円
初任者研修修了者	110,000円
訪問介護員（ホームヘルパー）1級研修修了者	90,000円
介護職員基礎研修修了者	30,000円

※ 上記金額には、テキスト代・団体総合生活補償保険・消費税を含むこととする。

○科目ごとのシラバス：別紙3

○科目ごとの担当教員・資格：

	氏名	年齢	担当科目	資格名	該当番号
専任教員 ◎＝教務に関する主任者	◎中井 慎一	38	生活支援技術 (介護技術)	介護福祉士	(1)
介護過程Ⅲ（面接授業）担 当教員	中井 慎一	38	生活支援技術 (介護技術)	介護福祉士	(1)
	奥野 誠	39	人間の尊厳と自 立・介護の基本・コ ミュニケーション 技術・生活援助技 術・介護過程その 他	介護福祉士	(1)
医療的ケア担当教員	岡本 直子	39	医療的ケア	看護師	(1)
	森 智子	61	医療的ケア	看護師	(1)

○使用する教材：

教育用 機械 器具 及び 模型	実習用モデル人形	1体	視聴覚機器	1器
	人体骨格模型	1体	障害者用調理器具・食器類	1台
	成人用ベッド	1床	和式布団一式	1式
	移動用リフト	1台	吸引装置一式	2式
	スライディングボード・マット	1台	経管栄養用具一式	2式
	車いす	1台	処置台又はワゴン	1台
	簡易浴槽	1槽	吸引訓練モデル	2体
	ストレッチャー	1個	経管栄養訓練モデル	2体
	排せつ用具	1個	心肺蘇生訓練用器材一式	1式
	歩行補助つえ	1本	人体解剖模型	1体
	盲人安全つえ	1本		

○教材の目録

No	教材名	著者・出版社
1	介護福祉士実務者研修テキスト 第1巻 人間と社会	中央法規出版
2	介護福祉士実務者研修テキスト 第2巻 介護Ⅰ	中央法規出版
3	介護福祉士実務者研修テキスト 第3巻 介護Ⅱ	中央法規出版
4	介護福祉士実務者研修テキスト 第4巻 こころとからだのしくみ	中央法規出版
5	介護福祉士実務者研修テキスト 第5巻 医療的ケア	中央法規出版

(実績に関する情報)

○卒業人数：0人

○卒業者の進路：受講前より従事している事業所での介護職員

別紙1

学 則

事業者番号	—	名 称	ふれあい研修・教育センター	
所在地	広島県府中市元町 271-1			
連絡先・ 相談窓口	所 属	株式会社 トータルウィン	氏 名	藤岡 秀行
	電話番号	0847-54-2825	番号	0847-54-2826
	一 ル	info@to-tal-win.com	HPアド レス	http://to-tal-win.com

1 本研修講座の設置目的

①設置目的	介護福祉士養成のために必要な知識や技術を教授し、もって、介護福祉に貢献する人材を育成することを目的とする
-------	--

2 研修の内容

①名 称	介護福祉士実務者研修			
②課 程	通信教育課程	③講義方法	通信・スクーリング	
④実施期間	① 平成 29 年 3 月 3 日 ～ 平成 29 年 9 月 8 日 (6ヶ月以上)			
	※ なお、保有資格によっては、この限りではない			
	日 程	別紙「日程表」のとおり		
⑤カリキュラム 及び講師	別紙「日程表」のとおり			
⑥使用テキ スト	名 称・ 発行会社	介護福祉士実務者研修テキスト 中央法規		
⑦実施場所	講義施設	府中商工会議所	所在地	府中市元町 4 4 5 - 1
	演習施設	府中商工会議所	所在地	府中市元町 4 4 5 - 1

	実習施設	実習なし
⑧受講料	金 135,000 円 (テキスト代 13,824 円, 消費税含む。) 但し、保持している資格により下記のとおりとする	
	訪問介護員 2 級・介護職員初任者研修修了者	110,000 円
	訪問介護員 1 級	90,000 円
	介護職員基礎研修修了者	30,000 円
	支払方法	一括払い
	解約条件・返金の有無	研修開始前のキャンセルについては受講料を返還するが、研修開始後のキャンセルについて返金には応じない
⑨定員	コース 30 名 (計 30 名)	
⑩教職員の組織	教員の組織：当該講座に、次の者を置く。 専任教員 1 名、介護過程Ⅲ担当教員 2 名、 医療的ケア担当教員 2 名	
⑪通信を行う地域	広島県内	
⑫その他	実施期間において、応募者数が定員の半分に満たない場合は講座を実施しないことがある。その際希望する者には弊社他日程の実務者研修講座を受講することができる。また、希望しない場合で受講料を既に支払っている場合には、全額返金する	

3 受講資格

①資格要件	介護事業に従事することを希望する者、従事することが確定している者またはすでに従事している者
-------	---

4 受講の手続き

①申込方法	所定の申込み用紙に必要事項を記載の上、持参又は郵送にて申し込む	
②申込先	株式会社 トータルウィン 〒726-0004 広島県府中市府川町 89-11 サンホープ府川 103 TEL : 0847-54-2825 FAX : 0847-54-2826	
③受講決定	先着順を原則とし。また申込み用紙の志望動機・介護の経験等の内容により受講決定を判断する。決定者には学習ガイドや教材等を送付する	
④科目免除	免除の有無	⑤ 有 ・ 無
		別紙 1 のとおり
	対象者	別紙 1 のとおり
	申込方法	申し込み時に申し出た上で、資格証を提示する

5 受講上の注意事項

①遅刻・早退・欠席の取扱い	遅 刻	各科目において、履修を認めず、別途補講を行う
	早 退	各科目において、履修を認めず、別途補講を行う
	欠 席	各科目において、履修を認めず、別途補講を行う
②補講の実施	実施の有無	④ ・ 無
		全ての科目
	上 限	制限なし
	方 法	個別対応にて、日時は当社指定とする。
	費 用	原則 3 日までは無料。3 日以上補講する場合は 7,500 円/1 回
	注 意 事 項	補講により、科目を履修するには、研修実施期間内に補講を修了し、修了評価を受ける必要がある
③修了の取扱い	修了評価	別紙、「添削その他の指導の方法及び課程修了の認定方法」に記載
	修了期限	平成 30 年 3 月 31 日までに修了すること。
	修了認定	修了を認定した者には、修了証書を交付する。
④受講の取 消し	次に該当するものは、受講を取り消すことがあるものとする。 (1) 学習意欲が著しく欠け、修了見込がないと認められる者 (2) 研修の秩序を乱し、他の受講者に影響を及ぼす者	
	休学しようとする場合は、診断書その他事由を明らかにする書類を提出し、校長の承認を受けなければならない。休学中の者が復学する場合はその事由を明らかにする書類を届け出なければならない	
⑥受講中の 事故等の対 応	<ul style="list-style-type: none"> ・研修中の事故については、あいおいニッセイ同和損保の団体総合生活補償保険に加入するとともに広島県、当該受講者の家族等に連絡を行い、必要な措置を講じる ・事故の状況及び事故に際してとった処置について記録する 	
⑦個人情報 の取扱い	受講者及び受講者に関する者の個人情報については、他に漏れない様、厳重に管理し、犯罪捜査等の法律上定められた目的に使用される以外は受講者の承諾なしに第三者に提供しない。 また、受講者は、研修を受講する上で知り得た個人情報を漏らしてはいけない	

添削その他の指導の方法及び
課程修了の認定方法

事業者名 株式会社 トータルウィン

		理解度・合格基準	理解不足・不合格時の取扱い
①各科目	<ul style="list-style-type: none"> ◆担当講師がレポート等により理解度等を確認すること。 <p><通信課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆担当講師が提出された課題の添削を行い、理解度を確認すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆別紙時間割及び授業内容に記載してある到達目標に達していること。 <p><通信課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆別紙時間割及び授業内容に記載してある到達目標に達していること。 ◆100点満点法により、70点以上を合格とする。(課題の総得点の7割以上) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆理解度が不足していると認められる場合は、指導・助言・補講等による補習を実施した後に、レポート等による再確認を行う。 <p><通信課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆理解度が不足していると認められる場合は、指導・助言・補講等による補習を実施した後に、課題の再提出による再確認を行う。
②介護過程Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> ◆出席簿により出欠を確認。 ◆授業参加態度も評価基準とする ◆演習については、担当講師が理解度を確認すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆各科目全ての実施時間に出席すること。 ◆別紙時間割及び授業内容に記載してある到達目標に達していること。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆やむを得ず欠席した場合は補講を受講すること。 ◆理解度が不足していると認められる場合は、指導・助言・補講等による補習を実施する。
③医療的ケア	<ul style="list-style-type: none"> ◆出席簿により出欠を確認。 ◆授業参加態度も評価基準とする ◆演習については、担当講師が理解度を確認すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆各科目全ての実施時間に出席すること。 ◆別紙時間割及び授業内容に記載してある到達目標に達していること。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆やむを得ず欠席した場合は補講を受講すること。 ◆理解度が不足していると認められる場合は、指導・助言・補講等による補習を実施する。
④修了試験	<ul style="list-style-type: none"> ◆全科目の修了後に実施。 ◆筆記試験をおおむね1時間実施し、担当講師が評価を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆全科目修了後であること。 ◆100点満点法により、70点以上を合格とする。(課題の総得点の7割以上) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆不合格の者に対しては、修了試験が合格になるように指導・助言・補講等による補習を実施した後に、再試験を行う。
⑤修了認定	<ul style="list-style-type: none"> ◆上記①～④の確認・評価を元に課程編成責任者が総合的に判断して認定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆上記①～④の理解度・合格基準を全て満たしていること。 	<p>_____</p>

科目名		時間数	介護職員 基礎研修	ホームヘルパー		介護職員 初任者研修	無資格
				1級	2級		
自宅学習	人間の尊厳と自立	5時間	—	—	—	—	●
	社会の理解Ⅰ	5時間	—	—	—	—	●
	社会の理解Ⅱ	30時間	—	—	●	●	●
	介護の基本Ⅰ	10時間	—	—	—	—	●
	介護の基本Ⅱ	20時間	—	—	—	●	●
	コミュニケーション技術	20時間	—	—	●	●	●
	生活支援技術Ⅰ	20時間	—	—	—	—	●
	生活支援技術Ⅱ	30時間	—	—	—	—	●
	介護過程Ⅰ	20時間	—	—	—	—	●
	介護過程Ⅱ	25時間	—	—	●	●	●
	発達と老化の理解Ⅰ	10時間	—	—	●	●	●
	発達と老化の理解Ⅱ	20時間	—	—	●	●	●
	認知症の理解Ⅰ	10時間	—	—	●	—	●
	認知症の理解Ⅱ	20時間	—	—	●	●	●
	障害の理解Ⅰ	10時間	—	—	●	—	●
	障害の理解Ⅱ	20時間	—	—	●	●	●
	こころとからだのしくみⅠ	20時間	—	—	—	—	●
	こころとからだのしくみⅡ	60時間	—	—	●	●	●
医療的ケア	50時間	●	●	●	●	●	
通学講習	介護過程Ⅲ	45時間					
	医療的ケア（講義・演習）	10時間					
合計時間数		460時間	60時間	105時間	330時間	330時間	460時間

(人間の尊厳と自立)

科目名	人間の尊厳と自立			担当者	中井慎一・奥野 誠
授業形態	通信	授業時間	5 時間	人数	30 名
学習目的	人間において、尊厳とは何なのか。自立とはどういった意味を持つのかを理解していく。				
到達目標	尊厳の保持、自立・自律の支援、ノーマライゼーション、利用者のプライバシーの保護、権利擁護など介護の基本的な理念を理解している。				
授業計画					
単元	主題	授業内容		備考	
1	人間の多面的な理解	人間を理解することで、人間の尊厳や人権の意義を多角的に探っていく。			
2	自立・自律の支援	自立と自律の関係性から、その人の生活を支えることは何かを考えていく			
3	人権と尊厳	介護における権利擁護とは何かを考え、未だに残っている身体拘束等の人権侵害をどのようにしてなくし、尊厳のある生活が行えるのかを考えていく。			
教科書	介護福祉士実務者研修テキスト 第1巻「人間と社会」(中央法規出版)				
成績評価	期限内提出、7割以上の理解度および修了試験での評価とする				

(社会の理解 I)

科目名	社会の理解 I			担当者	中井慎一・奥野 誠
授業形態	通信	授業時間	5 時間	人数	30 名
学習目的	介護保険制度の概要を理解し、活用していく技術を身につける。				
到達目標	介護保険制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割などを理解し、利用者等に助言できる。				
授業計画					
単元	主題	授業内容		備考	
1	介護保険制度創設の背景と目的	人口の少子高齢化から家庭の介護力の低下に伴い、どのようにして介護保険が創設されたか探っていく。			

2	介護保険制度の基礎的理解	介護保険制度の仕組みを理解し、利用までの流れやサービスの内容、地域支援事業等をつかんでいく。	
3	介護保険制度における専門職の役割	介護福祉士・介護支援専門員・その他の専門職の職域を理解し、チームアプローチとして機能できるように活用していく技術を身につける。	
教科書	介護福祉士実務者研修テキスト 第1巻「人間と社会」(中央法規出版)		
成績評価	期限内提出、7割以上の理解度および修了試験での評価とする		

(社会の理解Ⅱ)

科目名	社会の理解Ⅱ			担当者	中井慎一・奥野 誠
授業形態	通信	授業時間	30 時間	人数	30 名
学習目的	社会における様々な諸制度について理解し、適切に活用するための技術を身に付ける				
到達目標	社会保障制度など、介護の実践に関わる制度の役割と構造を理解し、利用者等に助言できる。				
授業計画					
単元	主題	授業内容		備考	
1	生活と福祉	家庭生活の機能を理解し、家族・地域・組織について考察していく。			
2	社会保障制度	社会保障の役割と構造を理解し、社会保険や公的扶助(生活保護制度)を把握していく。			
3	障がい者自立支援制度	障がい者自立支援法が成立した経緯を把握し、仕組みと内容、国などの役割関連機関などを理解していく。			
4	介護実践にかかわる諸制度	介護を実践するにあたって必要な制度(日常生活自立支援事業・成年後見制度・第三者評価制度等)を理解していく			
教科書	介護福祉士実務者研修テキスト 第1巻「人間と社会」(中央法規出版)				
成績評価	期限内提出、7割以上の理解度および修了試験での評価とする				

(介護の基本 I)

科目名	介護の基本 I			担当者	奥野 誠
授業形態	通信	授業時間	10 時間	人数	30 名
学習目的	介護福祉士とは何かを理解し、尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開を理解する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士制度の沿革、法的な定義・業務範囲・義務等を理解している。 ・個別ケア、ICF(国際生活機能分類)、リハビリテーション等の考え方を踏まえ、尊厳の保持、自立に向けた介護を展開するプロセス等をりかいしている。 ・介護福祉士の職業倫理、身体拘束の禁止・虐待防止に関する法制度等を理解し、倫理を遵守している。 				
授業計画					
単元	主題	授業内容		備考	
1	介護福祉士の制度	介護福祉士を取り巻く状況を把握し、介護福祉士制度を理解する。			
2	尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開	利用者の尊厳の保持を把握したうえで、自立に向けた介護とは何か、それをどのように展開していくか考察する。			
3	介護福祉士の倫理	専門職として介護福祉士の倫理を理解し、どのように行動していけばよいか考察する。			
教科書	介護福祉士実務者研修テキスト 第2巻「介護の I」(中央法規出版)				
成績評価	期限内提出、7 割以上の理解度および修了試験での評価とする				

(介護の基本Ⅱ)

科目名	介護の基本Ⅱ			担当者	奥野 誠
授業形態	通信	授業時間	20 時間	人数	30 名
学習目的	介護を必要とする人の生活を理解し、連携や介護における安全を確保しリスクマネジメントしながら支援する方法を理解する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護を必要とする高齢者や障がい者等の生活を理解し、ニーズや支援の課題を把握することができる。 ・チームアプローチに関わる職種や関係機関の役割、連携方法に関する知識を修得している。 ・リスクの分析と事故防止、感染管理等、介護における安全確保に関する知識を修得している。 ・介護福祉士の心身の健康管理や労働安全対策に関する知識を修得している。 				
授業計画					
単元	主題	授業内容		備考	
1	介護を必要とする人の生活の理解と支援	利用者自身が「その人らしく」生活できるように、どのように支援すればよいか考察していく。			
2	介護実践における連携	チームアプローチや他職種の職域を把握し、どのように地域で連携しているのか考察していく。			
3	介護における安全の確保とリスクマネジメント	現場における事故防止・安全対策等リスクマネジメントの重要性を理解し、どのようにすれば予防できるか考察する。			
4	介護福祉士の安全	バーンアウトや腰痛など健康管理、労務管理の重要性を理解し、働きやすい職場とは何かを考察していく。			
教科書	介護福祉士実務者研修テキスト 第2巻「介護のⅠ」（中央法規出版）				
成績評価	期限内提出、7割以上の理解度および修了試験での評価とする				

(コミュニケーション技術)

科目名	コミュニケーション技術			担当者	奥野 誠
授業形態	通信	授業時間	20 時間	人数	30 名
学習目的	プロセスレコード等を活用しながら、介護における利用者・家族・チームのコミュニケーションを理解し活用できる。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者・家族とのコミュニケーション・相談援助の技術を修得している。 ・援助関係を構築し、ニーズの意欲を引き出すことができる。 ・利用者の感覚・運動・認知等の機能に応じたコミュニケーションの技法を選択し活用できる。 ・状況や目的に応じた記録、報告、会議等での情報の共有化ができる。 				
授業計画					
単元	主題	授業内容		備考	
1	介護におけるコミュニケーション技術	バイステックの 7 原則を中心に、傾聴・質問・意向の調整等介護におけるコミュニケーション技術を具体的に理解していく。			
2	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション	事例を中心に、さまざまな障がいなどを持った利用者に対してのコミュニケーション技術を理解していく。			
3	介護におけるチームのコミュニケーション	記録・報告・会議などチームに必要なコミュニケーション技術を理解していく。		遂語記録を活用する。	
教科書	介護福祉士実務者研修テキスト 第2巻「介護の I」(中央法規出版)				
成績評価	期限内提出、7 割以上の理解度および修了試験での評価とする				

(生活支援技術 I)

科目名	生活支援技術 I			担当者	中井慎一・奥野 誠
授業形態	通信	授業時間	20 時間	人数	30 名
学習目的	ICF・ボディメカニクスを活用し、利用者の状態を考えながら介護技術の基本を実践する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援における ICF の意義と枠組みを理解している。 ・ボディメカニクスを活用した介護の原則を理解し、実施できる。 ・介護技術の基本(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等)を修得している。 ・居住環境の整備、福祉用具の活用等により、利用者の環境を整備する視点、留意点を理解している。 				
授業計画					
単元	主題	授業内容		備考	
1	生活支援と ICF	アセスメントにおける ICF と生活支援の関連を理解していく。			
2	居住環境の整備と福祉用具の活用	住まいは人間には欠かせないものであることを理解した上で、福祉用具の活用などにより、どのように住み慣れた住まいで生活できるのかを考察する。			
3	移動・移乗の介護技術の基本	ボディメカニクスを活用しながら、体位変換・車いすの活用・歩行支援等の技術の基本を修得する。			
4	食事の介護技術の基本	日常生活における食事の重要性を理解し、残存能力を活用できる場合、食事支援の誤嚥防止等様々な場合の介護技術の基本を修得する。			
5	入浴・清潔保持の介護技術の基本	安全に入浴していく支援を理解し、清拭・部分浴など清潔保持も含め基本的な介護技術基本を修得する。			
6	排泄の介護技術の基本	高齢者における排泄の障がいやコントロールを理解し、尿路感染に留意しながら、介護技術の基本を修得する。			
7	着脱・整容・口腔清潔の基本	残存能力の活用や QOL の向上を考えながら、介護技術の基本を修得する。			
8	家事援助の基本	調理・清掃・買い物など、日常生活に不可欠な家事についてプロセスを確認し、家事援助の基本的な介護技術を修得する。			
教科書	介護福祉士実務者研修テキスト 第2巻「介護の I」(中央法規出版)				
成績評価	期限内提出、7 割以上の理解度および修了試験での評価とする				

(生活支援技術Ⅱ)

科目名	生活支援技術Ⅱ			担当者	中井慎一
授業形態	通信	授業時間	30 時間	人数	30 名
学習目的	生活支援技術Ⅰで学んだ介護技術を実践し、利用者に合わせて介護技術を修得する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 以下について利用者の心身の状況に合わせて介護、福祉用具等の活用、環境整備を行うことができる。 移動・移乗、食事・入浴・清潔保持、排泄、着脱・整容・口腔清潔、睡眠、終末期の介護				
授業計画					
単元	主題	授業内容		備考	
1	移動・移乗の介護	安楽な体位や褥瘡の予防などを理解し、さまざまな状況の利用者に対して適切な支援を行える技術を修得する。			
2	食事の介護	誤嚥・窒息・脱水の発見および予防について理解し、さまざまな状況の利用者に対して適切な支援を行える技術を修得する。			
3	入浴・清潔保持の介護	入浴における留意点を理解し、さまざまな状況の利用者に対して適切な支援を行える技術を修得する。			
4	排泄の介護	ポータブルトイレ・パッドの活用、ストーマ・パウチの排泄物の除去の方法、頻尿・便秘などの対応の方法を理解し、さまざまな状況の利用者に対して適切な支援を行える技術を修得する。			
5	着脱・整容・口腔清潔の介護	心地よい顔の拭き方、ひげ・爪の手入れなど具体的な支援を理解し、さまざま状況の利用者に対して適切な支援を行える技術を修得する。			
6	睡眠の介護	睡眠における日中活動の重要性や服薬の効果を理解し、さまざまな状況の利用者に対して適切な支援を行える技術を修得する。			
7	終末期の介護	終末期ケアの意義を学び、何を支えればいいのか、危篤時の支援の実際はどうか、グリーフケアを含めての家族支援について考察していく。			
教科書	介護福祉士実務者研修テキスト 第2巻「介護のⅠ」（中央法規出版）				
成績評価	期限内提出、7割以上の理解度および修了試験での評価とする				

(介護過程 I)

科目名	介護過程 I			担当者	奥野 誠
授業形態	通信	授業時間	20 時間	人数	30 名
学習目的	介護過程の基礎的な知識を理解し、展開することができる。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護過程の目的、意義、展開等を理解している。 ・介護過程を踏まえ、目標に沿って計画的に介護を行う。 ・チームで介護過程を展開するための情報共有の方法、各職種の役割を理解している。 				
授業計画					
単元	主題	授業内容			備考
1	介護過程の意義と目的	介護の概念を再認識し、介護過程を展開する必要性を理解していく。			
2	介護過程の展開	介護過程のプロセスを重視し、どのようなプロセスを経ていくかを具体的にみていき、流れを理解していく。			
3	介護過程とチームアプローチ	介護過程とケアマネジメントを結びつけながら、チームアプローチを実践しながら、専門職としての介護福祉士の役割を理解していく。			
教科書	介護福祉士実務者研修テキスト 第3巻「介護Ⅱ」（中央法規出版）				
成績評価	期限内提出、7 割以上の理解度および修了試験での評価とする				

(介護過程Ⅱ)

科目名	介護過程Ⅱ			担当者	奥野 誠
授業形態	通信	授業時間	25 時間	人数	30 名
学習目的	紙上の事例の中で、利用者の状況を把握しチームアプローチを考えながら、介護過程を実践していく技術を身に付ける。				
到達目標	・情報収集、アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直しを行うことができる。				
授業計画					
単元	主題	授業内容		備考	
1	介護過程の実践的展開	事例による介護過程の展開の重要性を理解し、何度も繰り返していくことは大切であることを把握する。			
2	事例による介護過程の展開	高齢者(施設・在宅)、障がい者の事例を用いて、実際に介護過程を展開していく。			
3	演習	今までの内容を理解した上で、事例を自身自身で展開していく技術を身に付ける。			
教科書	介護福祉士実務者研修テキスト 第3巻「介護Ⅱ」(中央法規出版)				
成績評価	期限内提出、7割以上の理解度および修了試験での評価とする				

(介護過程Ⅲ)

科目名	介護過程Ⅲ			担当者	中井慎一・奥野 誠
授業形態	演習	授業時間	45 時間	人数	30 名
学習目的	グループごとに分かれて、少人数で利用者との対応や職務の理解などを理解しながら、実務者研修で修得した <u>介護過程の展開や生活支援技術等の知識・技術が実践</u> できる。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実務者研修過程で学んだ知識・技術を確実に修得し、活用できる。 ・知識・技術を総合的に活用し、アセスメント、介護計画立案、実施、介護計画の見直しを行うことができる。 ・介護計画を踏まえ、安全確保・事故防止・家族との連携・支援、他職種・他機関との連携を行うことができる。 ・知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況などに応じた介護を行うことができる。 				
授業計画					
単元	主題	授業内容		備考	
1	利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開	介護者の様々な生活形態を理解し、いかに介護過程を展開していくかを検討していく意義を理解していく。			
2	事例検討	様々な事例の中で介護過程を検討していく、実際に支援を行っていくためにはどのようにしていけばいいか検討していく。		適宜施設見学を促していく。	
教科書	介護福祉士実務者研修テキスト 第3巻「介護Ⅱ」（中央法規出版）				
成績評価	面接授業時の態度及び評価票に沿って演習を行い評価する。				

(老化と発達を理解 I)

科目名	老化と発達を理解 I			担当者	中井慎一・奥野 誠
授業形態	通信	授業時間	10 時間	人数	30 名
学習目的	老化に伴う心身の変化を理解し、どのように日常生活に影響するかを把握する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・老化に伴う心理的な変化の特徴と日常生活への影響を理解している。 ・老化に伴う身体的機能の変化の特徴と日常生活への影響を理解している。 				
授業計画					
単元	主題	授業内容		備考	
1	心の変化と日常生活への影響	老化が及ぼす日常生活における心理的影響を把握しながら、老人期における QOL・生きがいや適応課題・パーソナリティについて考えていく。			
2	身体の変化と日常生活への影響	老化が及ぼす日常生活における身体的影響を把握しながら、影響に関して各器官について理解していく。			
教科書	介護福祉士実務者研修テキスト 第4巻「こころとからだのしくみ」(中央法規出版)				
成績評価	期限内提出、7割以上の理解度および修了試験での評価とする				

(老化の発達と理解Ⅱ)

科目名	老化と発達の理解Ⅱ			担当者	中井慎一・奥野 誠
授業形態	通信	授業時間	20 時間	人数	30 名
学習目的	人間の発達を通じて、 <u>老年期の心理的な課題を把握し、高齢者に多い疾病等の留意点を理解している。</u>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・発達の定義、発達段階、発達課題について理解している。 ・老年期の発達課題、心理的な課題(老化、役割の変化、障がい、喪失、経済的不安、うつ等)と支援の留意点について理解している。 ・高齢者に多い症状・疾病等と支援の留意点について理解している。 				
授業計画					
単元	主題	授業内容			備考
1	人間の成長・発達	生理的・心理的発達の動きを知り、エリクソンの発達段階を中心に発達段階の意味と一般的な発達区分を理解する。			
2	老年期における発達課題	単元 I で学習した中でも老年期の発達・パーソナリティを理解し、高齢期で起きやすい心理的变化(喪失体験等)を留意しながら、いかにサクセスフルエイジングを迎えるかを考察していく。			
3	高齢者に多くみられる症状・疾病等	老化における心身的な機能低下に伴う、高齢者における症状や疾病とその対応を理解していく。			
教科書	介護福祉士実務者研修テキスト 第4巻「こころとからだのしくみ」(中央法規出版)				
成績評価	期限内提出、7 割以上の理解度および修了試験での評価とする				

(認知症の理解 I)

科目名	認知症の理解 I			担当者	中井慎一・奥野 誠
授業形態	通信	授業時間	10 時間	人数	30 名
学習目的	認知症は何かを知り、 <u>認知症の特徴を把握して支援の基本を習得する。</u>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症ケアの取り組みの経過を踏まえ、今日的な認知症ケアの理念を理解している。 ・認知症による生活上の障がい、心理・行動の特徴を理解している。 ・認知症の人やその家族に対する関わり方の基本を理解している。 				
授業計画					
単元	主題	授業内容		備考	
1	認知症ケアの理念と概念	認知症ケアの理念を理解し、その人らしい支援を行いながら人としてできることを考察して支援していくことを検討していく。			
2	認知症による生活障がい、心理・行動の特徴	認知症の中核症状・周辺症状を理解し、日常生活にどのように影響するかを把握していく。			
3	認知症の人との関わり、支援の方法	関わる前に、まずは支援者の感情のコントロールの重要性を理解し、実際に認知症の方との関わり方の基本を修得する。			
教科書	介護福祉士実務者研修テキスト 第4巻「こころとからだのしくみ」(中央法規出版)				
成績評価	期限内提出、7 割以上の理解度および修了試験での評価とする				

(認知症の理解Ⅱ)

科目名	認知症の理解Ⅱ			担当者	中井慎一・奥野 誠
授業形態	通信	授業時間	20 時間	人数	30 名
学習目的	医学的側面からの認知症の症状を理解し、家族を含め認知症の人への支援ができる。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・代表的な認知症(若年性認知症含む)の原因疾患、症状、障がい、認知症の進行による変化、検査や治療等についての医学的知識を理解している。 ・認知症の人の生活歴、疾患、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる。 ・地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。 				
授業計画					
単元	主題	授業内容		備考	
1	医学的側面から見た認知症の理解	医療的側面から見た認知症の内容を学習し、認知症の診断・各症状の特徴を理解していく。			
2	認知症の人や家族への支援の実際	認知症の症状の時期によって、本人や家族の支援の方法をそれぞれ理解し、チームアプローチの重要性や家族に対するレスパイトケア・エンパワメントなどについて考察していく。			
教科書	介護福祉士実務者研修テキスト 第4巻「こころとからだのしくみ」(中央法規出版)				
成績評価	期限内提出、7割以上の理解度および修了試験での評価とする				

(障害の理解 I)

科目名	障がいの理解 I			担当者	中井慎一・奥野 誠
授業形態	通信	授業時間	10 時間	人数	30 名
学習目的	障がい者福祉の理念を把握し、障がいの特徴を踏まえ支援の基本を修得する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいの理念の変遷や障がい者福祉の歴史を踏まえ、今日的な障がい者福祉の理念を理解している。 ・障がい(身体・知的・精神・発達障がい・難病等)により生活上の障がい、心理・行動の特徴を理解している。 ・障がい児者やその家族に対する関わり・支援の基本を理解している。 				
授業計画					
単元	主題	授業内容		備考	
1	障がい者福祉の理念	ICF に基づく障がいの概念を学習し、障がい者福祉の理念を理解していく。			
2	障がいによる生活障がい、行動・心理の特徴	各障がいにおける生活上の障がいを考察し、どのようにすれば日常生活をスムーズに行えるかを検討していく。			
3	障がい児・者や家族への関わり・支援の基本	障がいを持っている人や家族に対する支援の基本的な視点を考え、どういった意義があるかを考察していく。			
教科書	介護福祉士実務者研修テキスト 第4巻「こころとからだのしくみ」(中央法規出版)				
成績評価	期限内提出、7 割以上の理解度および修了試験での評価とする				

(障害の理解Ⅱ)

科目名	障害の理解Ⅱ			担当者	中井慎一・奥野 誠
授業形態	通信	授業時間	20 時間	人数	30 名
学習目的	医学的側面から障害を理解し、家族を含め地域における障害児者への支援ができる。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な障害の種類・特性、障害に伴う機能の変化等について医学的知識を修得する。 ・障害児者の障害、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる。 ・地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。 				
授業計画					
単元	主題	授業内容		備考	
1	医学的側面から見た障害の理解	医学的側面から見た各障害の特徴を学習し、具体的に障害をとらえていく。			
2	障害児・者への支援の実際	個別支援を前提にして、障害者本人やその家族の支援の方法を理解し、地域で生活するにはどのようにすればよいかを考察していく。			
教科書	介護福祉士実務者研修テキスト 第4巻「こころとからだのしくみ」(中央法規出版)				
成績評価	期限内提出、7割以上の理解度および修了試験での評価とする				

(こころとからだのしくみ I)

科目名	こころとからだのしくみ I			担当者	中井慎一・奥野 誠
授業形態	通信	授業時間	20 時間	人数	30 名
学習目的	介護に関連した <u>身体の仕組みの基礎的な理解</u> ができ、 <u>生活支援技術と関連づけていく</u> 。				
到達目標	・介護に関係した身体の構造や機能に関する基本的な知識を修得している。 (移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔等)				
授業計画					
単元	主題	授業内容		備考	
1	移動・移乗に関連するからだのしくみ	生活に必要な行為として移動・移乗があることを理解し、その行為におけるからだのしくみを修得する。			
2	食事に関連するからだのしくみ	日常生活の中での栄養摂取など食事の重要性を理解し、基本的な体の仕組みを理解しておく。また、代表的な栄養摂取法を修得しておく。			
3	入浴・清潔保持に関連するからだのしくみ	日常生活における、清潔保持の意義や入浴の 3 つの作用を理解し、基本的な体の仕組みを学ぶ。			
4	排泄に関連するからだのしくみ	排泄行為がなぜ起こるのか把握し、基本的な体の仕組みを理解しておく。			
5	着脱、整容、口腔清潔に関連するからだのしくみ	なぜ日常生活の中で身支度を行うかを考え、基本的な体の仕組みを理解しておく。			
教科書	介護福祉士実務者研修テキスト 第4巻「こころとからだのしくみ」(中央法規出版)				
成績評価	期限内提出、7 割以上の理解度および修了試験での評価とする				

(こころとからだのしくみⅡ)

科目名	こころとからだのしくみⅡ			担当者	中井慎一・奥野 誠
授業形態	通信	授業時間	60 時間	人数	30 名
学習目的	人体の構造・機能、身体のしくみ、心理・認知機能等を踏まえた介護におけるアセスメントや観察のポイント及び介護の留意点を理解する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の基本的欲求、学習・記憶などに関する基礎的知識を修得している。 ・生命の維持・恒常、人体の部位、骨格・関節・筋肉・神経、ボディメカニクス等、人体の構造と機能について基本的な知識を修得している。 ・身体の仕組み、心理・認知機能等についての知識を活用し、アセスメント、観察、介護、他職種の連携が行える。 				
授業計画					
単元	主題	授業内容		備考	
1	人間の心理	マズローの階層欲求説をもとに、人間の欲求の基本的理解を行い、人間のこころの仕組みを把握する。			
2	人体の構造と機能	生命の維持・恒常の仕組みを把握し、人間の体の仕組みを具体的に各機関ごとに理解していく。			
3	移動・移乗における観察のポイント	移動・移乗における観察のポイントを理解し、特にエピソードなどを把握し、時には他職種との連携を行う重要性を修得する。			
4	食事における観察のポイント	食事における観察のポイントを理解し、特に医療職との連携を行っていく重要性を修得する。			
5	入浴・清潔保持における観察のポイント	入浴・清潔保持における観察のポイントを理解し、特に医療職との連携を行っていく重要性を修得する。			
6	排泄における観察のポイント	排泄における観察のポイントを理解し、特に医療職との連携を行っていく重要性を修得する。			
7	着脱・整容・口腔清潔における観察のポイント	身支度における観察のポイントを理解し、特に医療職との連携を行っていく重要性を修得する。			
8	睡眠における観察のポイント	睡眠の仕組みを把握し、心身機能の低下による睡眠への影響(中途覚醒等)があることを学習し、観察のポイントや医療職との連携を行っていく重要性を修得する。			
9	終末期における観察のポイント	死後を含めた終末期の身体機能の特徴を知り、医療職との連携を行っていく重要性を修得する。			
教科書	介護福祉士実務者研修テキスト 第4巻「こころとからだのしくみ」(中央法規出版)				
成績評価	期限内提出、7割以上の理解度および修了試験での評価とする				

(医療的ケア)

科目名	医療的ケア			担当者	森 智子・岡本 直子
授業形態	通信	授業時間	50 時間	人数	30 名
学習目的	医療的ケアを安全に行うための基礎知識、喀痰吸引及び経管栄養の実施手順について理解する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケアを安全に実施するための基礎的知識について理解し、関連する法制度や倫理等を理解している。 ・感染予防、安全管理体制等についての基礎的知識について理解している。 ・喀痰吸引の基本的知識を理解し、喀痰吸引における急変・事故発生時の対応、実施手順についても理解している。 ・経管栄養の基本的知識を理解し、経管栄養における急変・事故発生時の対応、実施手順についても理解している。 				
授業計画					
単元	主題	授業内容		備考	
1	医療的ケア	喀痰吸引等制度、医療的ケアと喀痰吸引の背景について理解する。			
2	安全な療養生活	安全に喀痰吸引や経管栄養を提供する重要性を理解する。また救急蘇生についての重要性を理解する。			
3	清潔保持と感染予防	感染について理解し、感染予防の重要性を理解する。			
4	健康状態の把握	身体・精神の健康について、平常状態、急変状態を理解し、急変時の対応を理解する。			
5	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論	呼吸の仕組みとはたらき、喀痰吸引の基本的知識を理解する。 喀痰吸引における急変・事故発生時の対応などについて理解する。			
6	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順	喀痰吸引の実施手順(口腔内、鼻腔内、気管カニューレ内部)を理解する。			
7	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論	消化器系のしくみとはたらき、経管栄養を受ける人の気持ちの理解など、経管栄養の基本的知識を理解する。経管栄養における急変・事故発生時の対応などについて理解する。			
8	高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順	経管栄養の実施手順(胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養・経鼻経管栄養)を理解する。			
教科書	介護福祉士実務者研修テキスト 第5巻「医療的ケア」(中央法規出版)				
成績評価	期限内提出、7割以上の理解度および修了試験での評価とする				

(医療的ケア：演習)

科目名	医療的ケア(演習)			担当者	森 智子・岡本 直子
授業形態	演習	授業時間	10 時間	人数	30 名
学習目的	<u>喀痰吸引及び経管栄養のケアについて、実際の流れに沿って演習を行い、喀痰吸引及び経管栄養のケアの実際を理解する。</u>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・喀痰吸引のケア実施の流れについて、評価票に基づき、口腔内、鼻腔内、気管カニューレ内部をそれぞれ 5 回以上行い、評価を得る。 ・経管栄養のケア実施の流れについて、評価票に基づき、胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養、経鼻経管栄養をそれぞれ 5 回以上行い、評価を得る。 ・救急蘇生法について、心肺蘇生の流れを 1 回以上行う。 				
授業計画					
単元	主題	授業内容		備考	
1	喀痰吸引のケア実施	喀痰吸引のケア実施の流れについて演習を通して理解する。			
2	経管栄養のケア実施	経管栄養のケア実施の流れについて演習を通して理解する。			
3	救急蘇生法	救急蘇生法について、心肺蘇生の流れを演習を通して理解する。			
教科書	介護福祉士実務者研修テキスト 第5巻「医療的ケア」(中央法規出版)				
成績評価	面接授業時の態度及び評価票に沿って演習を行い評価する。				